

Relationships between skeletal morphology and patterns of bilateral agenesis of third molars in Japanese orthodontic patients

学位名	博士(歯学)
学位授与機関	日本歯科大学
学位授与年度	2019
学位授与番号	甲第1211号
URL	http://id.nii.ac.jp/1102/00000959/

氏 名(生年月日)	魚 津 美 和 (昭和62年 1 月13日)
本 籍	富 山 県
学 位 の 種 類	博 士 (歯 学)
学 位 記 番 号	甲 第 1 2 1 1 号
学位授与の日付	令和 2 年 2 月27日
学位授与の要件	
学 位 論 文 題 目	Relationships between skeletal morphology and patterns of bilateral agenesis of third molars in Japanese orthodontic patients
論 文 審 査 委 員	主 査 小 出 馨 副 査 佐 藤 聡 小松崎 明

論 文 内 容 の 要 旨

第三大臼歯の先天性欠如と骨格形態の関連を調べた報告はあるが、第三大臼歯以外の歯の先天性欠如を伴わない上顎あるいは下顎両側第三大臼歯の先天性欠如と骨格形態の関係を調べた報告はない。本研究は、日本人矯正患者における上顎あるいは下顎両側第三大臼歯の先天性欠如と骨格形態の関連について検討した。資料は、上顎両側第三大臼歯が欠如し下顎両側第三大臼歯が存在している60名（男性30名、女性30名；U群）、下顎両側第三大臼歯が欠如し上顎両側第三大臼歯が存在している60名（男性30名、女性30名；L群）、上下顎両側第三大臼歯が存在する60名（男性30名、女性30名；C群）の側面頭部エックス線規格写真である。各群とも第三大臼歯以外の歯の先天性欠如がない症例を選択した。線分析、角度分析および面分析を用いて、これら3群間と男女間における骨格形態を比較した。そして、以下の結果を得た。

1. 上顎骨長径と上顎骨面積は、U群とL群がC群より有意に小さかった。
2. 下顔面高は、U群がC群より有意に小さかった。
3. 女性は男性に比べて、上顎骨長径、下顎骨長、下顎骨体長、下顎枝高、SNB角、上顎骨面積、下顎結合部面積、下顎骨体面積および下顎枝面積が有意に小さかった。
4. 男性は女性に比べて、下顔面高、下顎下縁平面角およびANB角が有意に小さかった。

以上より、上顎あるいは下顎両側第三大臼歯の先天性欠如は上顎骨長径と面積、さらに上顎両側第三大臼歯の先天性欠如は下顔面高を有意に小さくすることが明らかとなった。

論 文 審 査 の 要 旨

本研究は、日本人矯正患者における両側第三大臼歯の先天性欠如パターンと骨格形態の関連について検討したものである。その結果、上顎あるいは下顎両側第三大臼歯の先天性欠如は上顎骨長径と面積、上顎両側第三大臼歯の先天性欠如は下顔面高を有意に小さくすることを明らかにした。これらの知見は、矯正歯科治療の診察、診断および成績を向上させる有益な情報であり、歯学に寄与するところが多く、博士（歯学）の学位に値するものと審査する。